

# 東岡山(市道)遺跡 発掘調査現地説明会資料

日時：平成17年1月22日(土) 13:30～

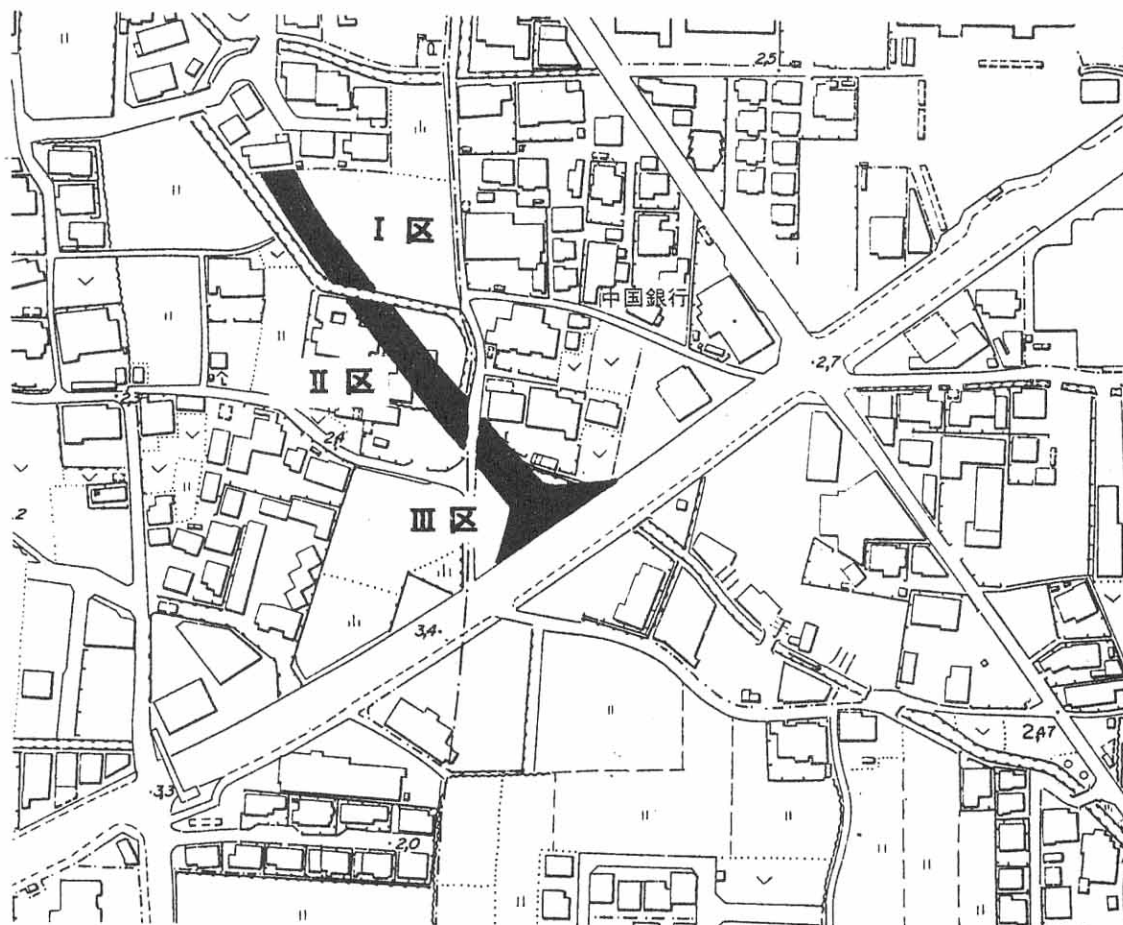
場所：岡山市下248-1ほか

(東岡山遺跡発掘調査現場)

今回の発掘調査は市道建設に伴って、平成16年9月から平成17年1月までの予定でおこなっています。調査面積は約1,500㎡です。

調査対象となっている東岡山遺跡は、かつて土器が採集されたということだけで発掘調査などはおこなわれたことはありませんでした。

しかし周囲には、備前車塚古墳、山王山古墳などの著名な前期古墳が築かれており、弥生時代以来の集落遺跡である雄町遺跡、乙多見遺跡などがあります。さらに北には備前国府の推定地もあり、この地域が古くからの中心地であったことがうかがわれます。東岡山遺跡もその一部であった可能性が推測されます。



発掘区域図 (S=1/2500)



古代の東岡山遺跡周辺

(S=1/25000)



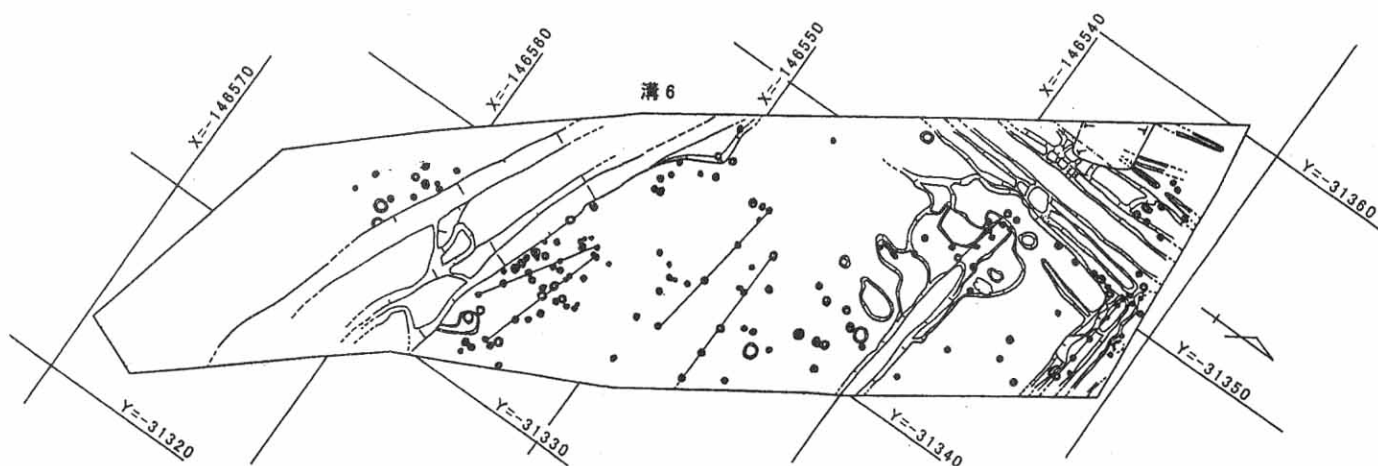
どんな  
遺跡なの？

発掘調査の結果、弥生時代前期、古墳時代（今から1,500～1,700年前）、室町時代（今から約500年前）、江戸時代の集落が見つかりました。特に弥生時代前期は、

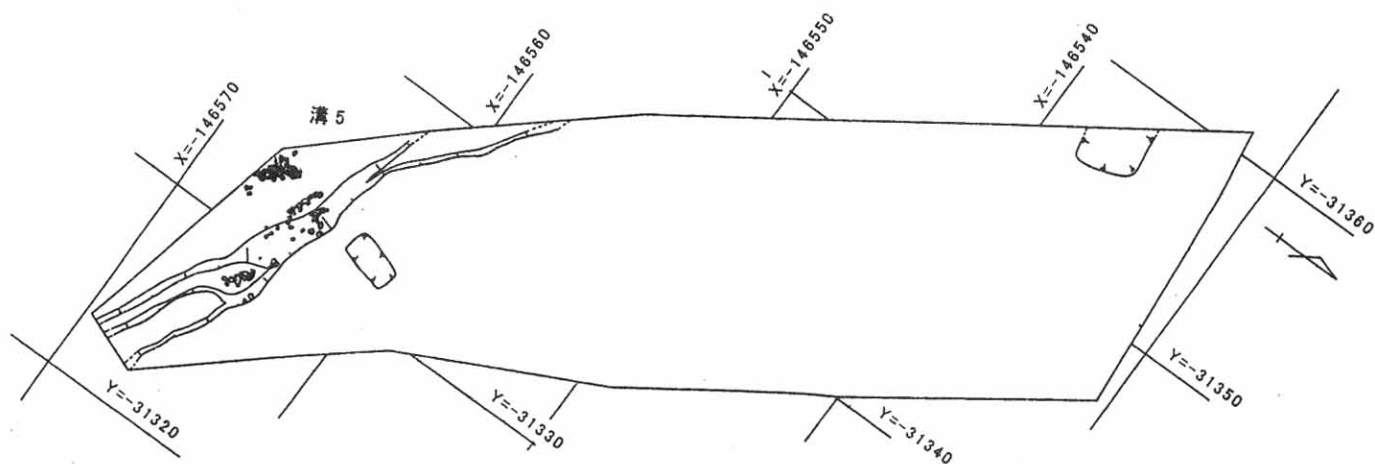
この辺りの最古の集落の一つに位置づけられるものです。また、室町時代から江戸時代の集落は、現代の集落へと続くものであり、その成立は今も周辺の水田を潤している山手川の開発を契機に始まったことも明らかになりました。さらに、中国製陶磁器や初期伊万里焼の大皿なども出土し

ており、有力な集落であったこともうかがわれます。

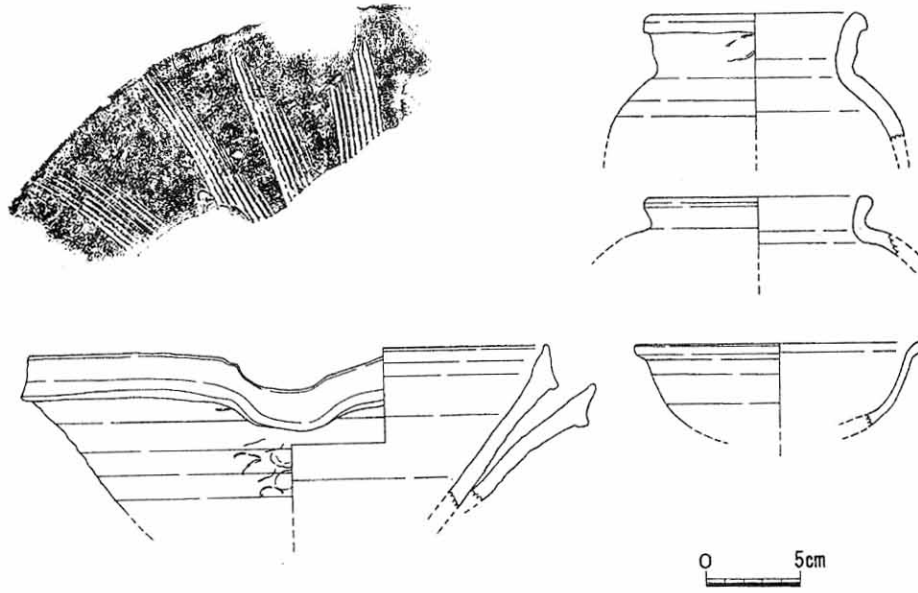
今回の発掘調査では以上のように多くの成果がありました。今後は岡山市埋蔵文化財センターへ出土した遺物を持ち帰って整理し、遺跡の性格をより詳細に検討していきます。



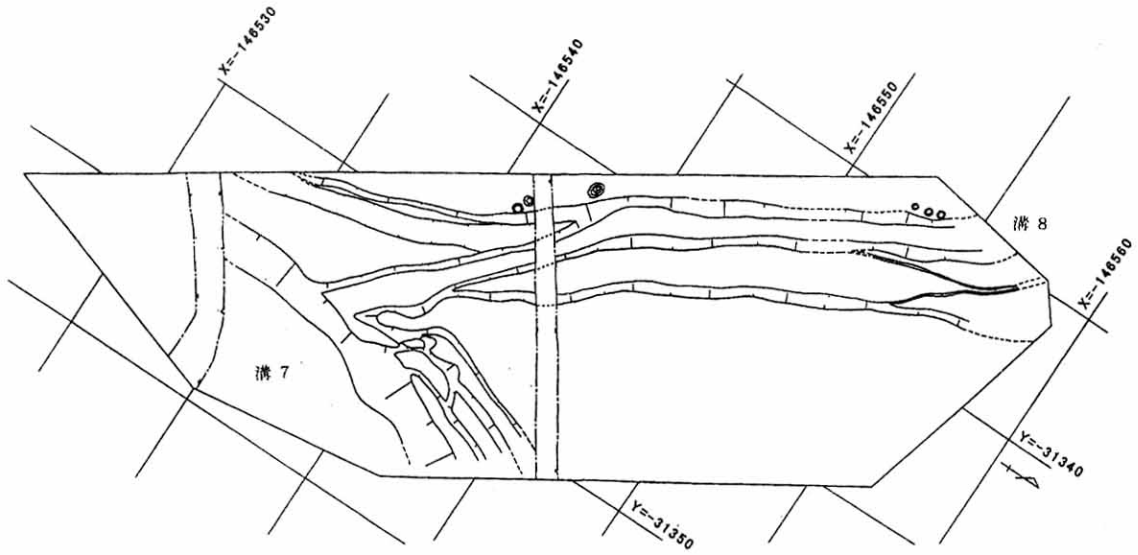
I区 中世後半（15～16世紀）遺構配置図



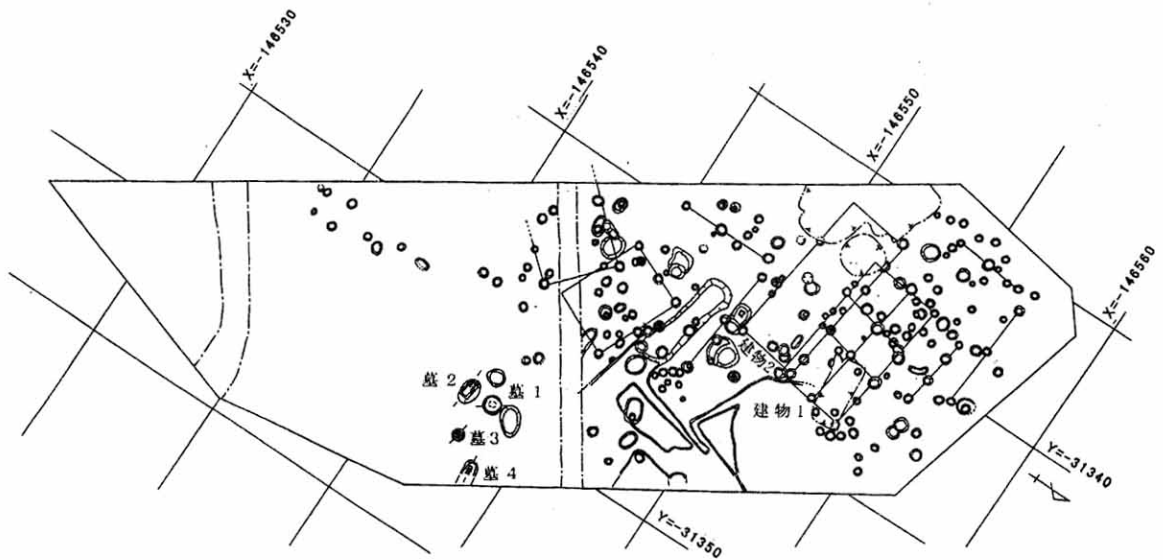
I区 近世初頭（17世紀前半）遺構配置図



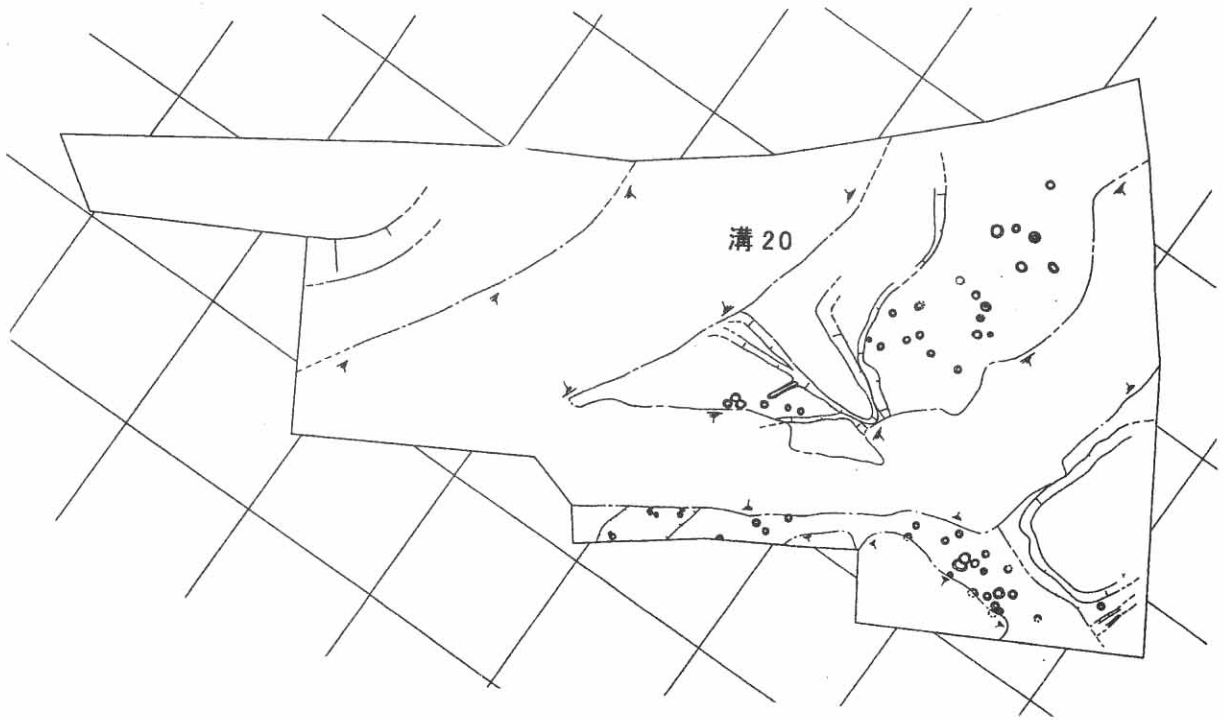
溝6 出土遺物



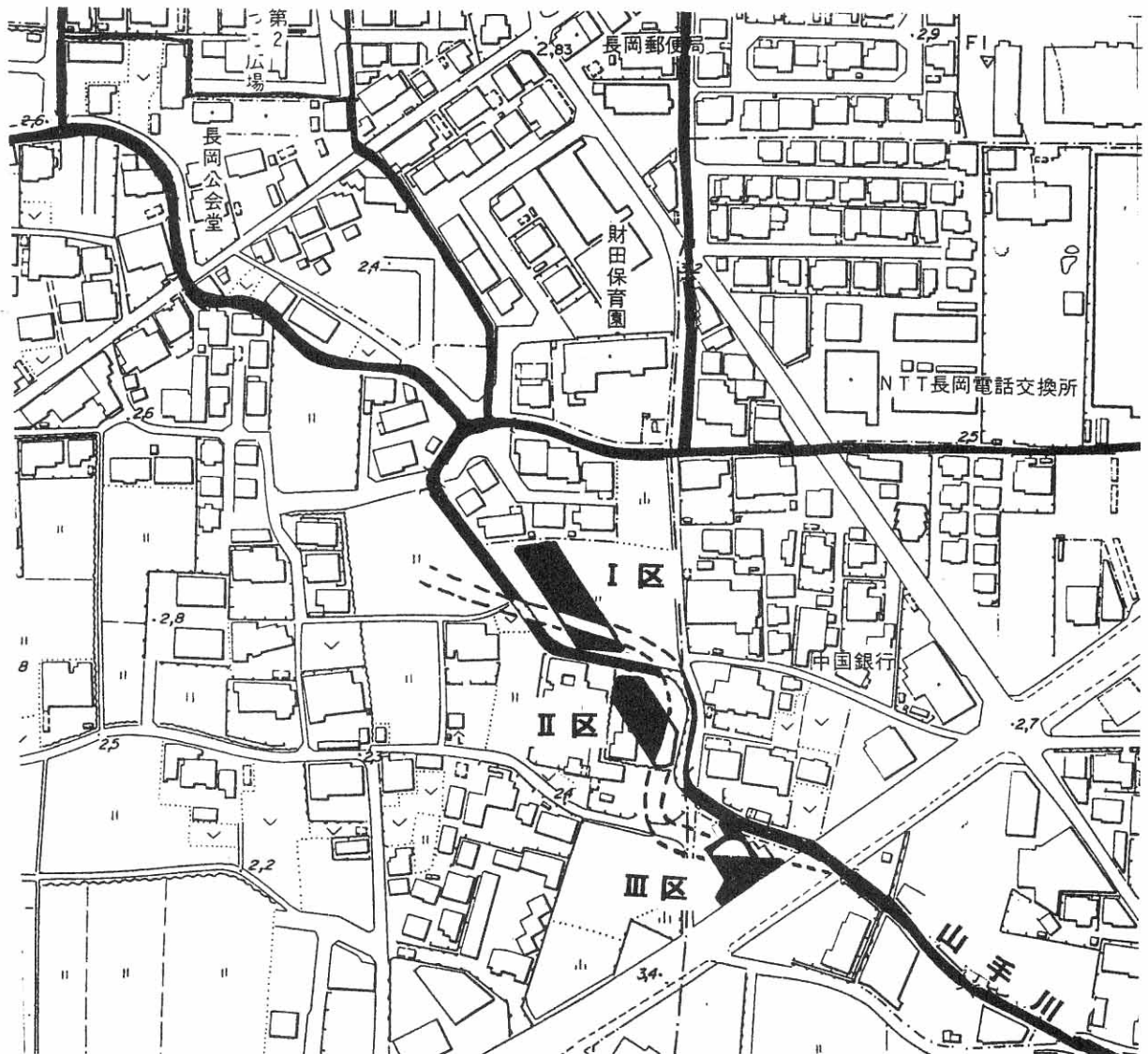
Ⅱ区 中世後半（15～16世紀）遺構配置図



Ⅱ区 近世初頭（17世紀）遺構配置図



Ⅲ区 中世後半（15・16世紀）遺構配置図



周辺の用水路と溝6・溝7との関連